

# Arcserve Backup r17

## 下位互換サポート

2016/03/03

### 下位互換サポートについて

Arcserve Backup は、同一バージョン間だけではなく、下位バージョンのエージェント製品を利用できます。下位互換を利用することで、バージョンアップができない環境や、アップグレードに時間がかかる環境において、バックアップ運用の継続ができます。

下位互換とは、バックアップ サーバとなる Arcserve Backup 本体製品のバージョンが、各種エージェント製品よりも上位のバージョンを利用する環境を指します。下位互換の対象製品や注意事項は本文書で確認してください。

### 下位互換サポートの対象製品と対象バージョンについて

Arcserve Backup r17 では、下記エージェント製品の下位互換をサポートします。

- Client Agent for Windows
- Client Agent for 64bit Windows (IA64)
- Client Agent for Linux
- Agent for Open Files
- Agent for Virtual Machines  
(Guest Based Virtual Machines Agent Bundle と VM Agent per Host License)

対象バージョンは、サポート期間中のバージョンになります。サポート期間終了とともに、該当バージョンの下位互換サポートも終了となります。Arcserve 各製品のサポート終了日や終了予定日は、Arcserve Japan のサポート サイトか、下記 URL から確認できます。(Arcserve Backup r17 リリース時点では、r16.5 と r16 のバージョンが対象になります。)

<https://arcserve.zendesk.com/hc/ja/sections/200455219-Product-Release-and-Support-Lifecycle-Dates>

## 下位互換サポートの注意点

下位互換サポートにはいくつかの注意点があります。“1. 全体的な注意点”と、利用する製品の注意点、最後に“8. そのほかの注意点”をすべて確認してください。

### 1. 全体的な注意点

- ライセンスキーの登録 (重要)

Arcserve Backup r17 からライセンスの登録モジュールが変わりました。Arcserve Backup r17 の本体製品導入サーバに、r16.5 や r16 の下位互換対象製品のライセンス キーも登録してください。旧バージョンのバックアップ サーバから r17 に上書きインストールを行っている場合でも、下位互換対象製品のライセンス キー登録は必要です。

下位互換製品のライセンス登録は、バックアップ サーバ (Central Management Option を導入している Arcserve Backup ドメイン環境の場合は、プライマリ サーバ) の下記ライセンスモジュールから行います。

ライセンスモジュールのパス (旧バージョンとパスが異なります)

64bit OS: C:\Program Files (x86)\Arcserve\SharedComponents\CA\_LIC\CALicnse.exe

32bit OS: C:\Program Files\Arcserve\SharedComponents\CA\_LIC\CALicnse.exe

- 同一ノードでのバージョン混在

1つのノードに導入できる Arcserve Backup の製品 (本体/オプション/エージェント) は、1つのバージョンのみです。

下位互換対象の製品と、下位互換に対応していない製品が混在しているノードでは、すべての製品をバックアップ サーバのバージョンに合わせてください。Arcserve Backup 製品を上書きでアップグレードを行うと、導入しているすべての製品を自動的に r17 にアップグレードします。

- 下位バージョンの Service Pack / 累積モジュール

下位互換対象バージョンでは、最新 Service Pack や累積モジュールの適用は必須ではありませんが、下位互換のエージェントで問題が発生した場合、問題解決や調査のために、Arcserve Backup 各バージョンの最新 Service Pack や累積モジュールなどの適用をお願いすることがあります。

- 上位バージョンの機能

Arcserve Backup r17 でサポートしている機能でも、下位互換の各バージョンで対応していない機能は利用できません。r17 の新機能/拡張機能はリリースノートを、r16.5 の新機能/拡張機能はリリースサマリを参照してください。(r16.5 の機能確認は、r16 の製品を利用する場合のみ)

マニュアルページ:

<https://arcserve.zendesk.com/hc/ja/articles/202393819>

- Arcserve シリーズ製品との混在環境

1つのノードに Arcserve シリーズの別製品、Arcserve D2D/UDP/Replication/HA を導入し、それぞれの連携機能を利用しているケースでは、Arcserve シリーズすべての製品のアップグレードが必要になる場合もあります。各製品のマニュアルやサポート サイトを参照してください。

## 2. Client Agent for Windows の注意点

- Disaster Recovery Option

Disaster Recovery Option を利用している場合は、Arcserve Backup r17 のバックアップ サーバからバックアップした後に、復旧キット (WinPE DR の起動メディアやマシン固有情報など) を再作成してください。

Arcserve Backup r17 でサポートしていない復旧方法を利用している場合は、WinPE DR など、Arcserve Backup r17 で復旧キットを作成できる方法に変更してください。

- Disaster Recovery Option (P2V 復旧)

Disaster Recovery Option で r16 の下位バージョンを利用する場合、Hyper-V の仮想マシン (ゲスト OS) への P2V 復旧機能は利用できません。

## 3. Client Agent for 64bit Windows (IA64) の注意点

- Disaster Recovery Option

Disaster Recovery Option での復旧は利用できません。システム全体を復旧する場合は、フルリカバリを利用してください。

## 4. Client Agent for Linux の注意点

下位互換に関する注意点はありませぬ。下位バージョンでサポートしている IA64 環境に導入している Client Agent もサポートします。

## 5. Agent for Open Files の注意点

- VSS ライタ機能

Agent for Open Files に含んでいる、VSS ライタによるアプリケーションのオンライン バックアップは、Agent for Open Files と同じバージョンで提供している、各アプリケーション Agent の動作要件に準じます。

例: r16.5 の Agent for Open Files で SQL Server Writer を利用する場合は、r16.5 の Agent for Microsoft SQL でサポートしている SQL Server のバージョンと Service Pack の組み合わせを参照してください。

## 6. Agent for Virtual Machines (vSphere 環境) の注意点

- バックアップ プロキシと各仮想マシンでのバージョン混在  
バックアップ ソースの選択で、VMware から仮想マシンを選択し、さらに下記の条件に該当する場合は、バックアップ プロキシと各仮想マシンに導入している Agent for Virtual Machines を、すべて同じバージョンで利用してください。
  - ❖ バックアップ プロキシに r16 の Agent for Virtual Machines を導入している環境で、ファイル単位のリストアを行う、[ファイル レベル リストアを許可する] にチェックを入れた raw モードや、同じくファイル単位のリストアを行う混在モードを利用する場合
  - ❖ バックアップ プロキシに Service Pack 1 を適用していない r16.5 の Agent for Virtual Machines を導入している環境で、ファイル単位のリストアを行う、[ファイル レベル リストアを許可する] にチェックを入れた raw モードや、同じくファイル単位のリストアを行う混在モードを利用する場合
- ライセンス バージョン  
vSphere から仮想マシンのデータを受け取るバックアップ方式 (raw モード、混在モード、ファイルモード) を利用している場合、仮想マシンとバックアップ プロキシに導入している Agent for Virtual Machines はすべて同じバージョンのライセンス キーを用意してください。仮想マシンへの Agent 製品導入状態にかかわらず、バックアップ対象の仮想マシンにはすべて、Agent for Virtual Machines のライセンスが必要です。
- 物理方式のバックアップ  
Agent for Virtual Machines に含んでいる Client Agent や、Agent for Open Files の機能を使って、仮想マシンを物理環境と同じ方法でバックアップを行っている環境では、前述の Client Agent for Windows や Client Agent for Linux、または Agent for Open Files の注意点を参照してください。この環境ではバックアップ プロキシの機能を利用しないため、各仮想マシンに導入している Agent のバージョンが不揃いでも、サポート対象になります。

## 7. Agent for Virtual Machines (Hyper-V 環境) の注意点

- Hyper-V ホストと各仮想マシンでのバージョン混在

バックアップ ソースの選択で、Hyper-V から仮想マシンを選択し、さらに下記の条件に該当する場合は、Hyper-V ホストと各仮想マシンに導入している Agent for Virtual Machines を、すべて同じバージョンで利用してください。

- ❖ ファイル単位のリストアを行う、[ファイル レベル リストアを許可する] にチェックを入れた raw モードや、同じくファイル単位のリストアを行う混在モードを利用する場合
  - ❖ ドライブ単位のバックアップやファイル単位のリストアを行うファイルモードを利用する場合
- ライセンス バージョン  
Hyper-V から仮想マシンのデータを受け取るバックアップ方式 (raw モード、混在モード、ファイルモード) を利用している場合、仮想マシンと Hyper-V ホストに導入している Agent for Virtual Machines はすべて同じバージョンのライセンス キーを用意してください。仮想マシンへの Agent 製品導入状態にかかわらず、バックアップ対象の仮想マシンにはすべて、Agent for Virtual Machines のライセンスが必要です。

- 物理方式のバックアップ

Agent for Virtual Machines に含んでいる Client Agent や、Agent for Open Files の機能を使って、仮想マシンを物理環境と同じ方法でバックアップを行っている環境では、前述の Client Agent for Windows や Client Agent for Linux、または Agent for Open Files の注意点を参照してください。この環境では Hyper-V ホストからデータを受け取らないため、各仮想マシンに導入している Agent のバージョンが不揃いでも、サポート対象になります。

## 8. そのほかの注意点

- Arcserve Backup マネージャ

Arcserve Backup をリモート環境から操作する場合は、同じバージョンの Arcserve Backup マネージャを導入してください。

- Arcserve Backup ドメイン環境 (Central Management Option 利用環境)

ドメインを構成するプライマリ サーバとメンバー サーバでは、全台同じバージョンの Arcserve Backup 製品を利用してください。プライマリ サーバやメンバー サーバから接続するエージェントでは、下位互換の対象製品を利用できます。

SAN 上のテープ装置や VTL を共有する SAN Option 利用環境も、Arcserve Backup ドメイン環境となるため、テープ装置や VTL を共有するすべてのサーバに、同じバージョンの Arcserve Backup 製品を導入してください。

- Global Dashboard

複数の Arcserve Backup ドメイン環境やスタンドアロンのバックアップ サーバ環境を一元管理する Global Dashboard では、同じバージョン間での管理をサポートしています。各バックアップ サーバに導入する Arcserve Backup 製品のバージョンは、セントラル プライマリ サーバにあわせてください。